

# PHAYAOLレポート 2006-04

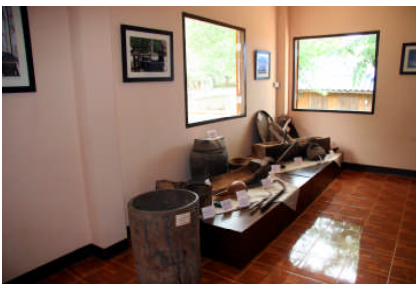
セーンサイ村に “モンの文化センター・図書館” ができた

「全郵政労働組合近畿本部のみなさん」からの贈り物

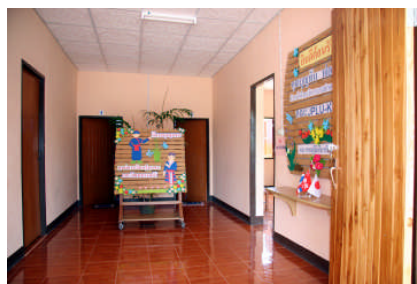
こども達の 夢を 育むプレゼント “ありがとう みんなで大切に使います。”



文化センター正面左側は、ミニ演舞場内部は、今失われつつあるモンの生活用品の展示室。  
左側は、図書室 ただいま、本の寄贈募集中！！。



伝統の生活用品の展示室



奥は、エコトイレシステム



図書室

1992年SVAがセーンサイ村に幼稚園を開設したとき、四畳半スペースの竹壁とわら屋根の図書館を併設しました。その後、雨漏りがひどくなり、せっかくみなさんから頂いた大切な本が傷み、図書を保管するところが無く困っていました。

1998年当時自立の兆しが見えてきた頃、村の女性グループを中心に刺繍のクラフト販売で貯めたお金で、親たちの手で小さいながら雨の漏らないスレートのものに建て替えることができました。

そして今まで8年間、狭い場所で子ども達のほとんどは、外の木陰で本を読んで勉強をしていました。今日からは、雨が降っても暑くても、もう大丈夫・ゆっくり落ち着いてみんなで一緒に勉強できるね！

当初の様子



わら葺きの図書館



内部の様子（えほん だいすき！）

## 小さな図書館（1998年 シャンティ山口ニュースレター第11号から抜粋）

1998年2月、タイ経済は低迷し、大量の失業者が続出、パーツは、史上最低になるなど最悪の時期、追い打ちを掛けるように、赤茶けた土埃が舞う乾期のまただ中、久しぶりのセーンサイ村訪問である。

村に着くと、まるで我が家に帰ったように落ち着く。相変わらず、村の時は、大きくゆっくりと自然に流れているように思えた。「おやっ!」、いつもの管理棟の窓越しに見える子ども達の図書小屋に異変があるのに気づいた。

竹とわらで造った雨漏りのする小屋は、既に無く、ブロックの図書館に建て替わる最中だった。

雨漏りを避けながら片隅で食い入るように本を見ながらお勉強している子どもの姿は、日本では、もう想像もできなくなった。

何不自由なく過ごしている我々、セーンサイ村にいと、今まで忘れていたこと・考えても見なかったことが、つぎ次と出てくる。日本に帰るとまた、元に戻ってしまう。

セーンサイ村であれだけ自分に言い聞かせたのに・・・と。

この5年間でようやく村の人たちにコミュニティーができ、自分たちで考え、行動することができるようになった

この図書館の建て替えは、女性グループのクラフト（手工芸品）売り上げの積立金の一部と、親たちが出し合った経費で、セメント・ブロック等の材料を買い、すべて自分たちの力で実行し協力が実ったものである。

学習の大切さを、身をもって体験した親、自分たちがしたくても叶わなかった想いを、子ども達に託す気持ちと、遅ればせながら子ども達と一緒に学ぼうとする努力が、何かにつけ行動に表れてきている。

「ちいさな・小さな図書館、おおきな・大きな自立」まもなく完成・・・・・・・・。

・・・・雨期のさなか図書館は、こどもたちでいっぱい、熱気むんむん、子ども達を取り巻く親達は、充実感と、自信に満ちあふれた笑顔が、目に見えるようである・・・・

（文責：理事 佐伯昭夫）